

第4回(平成28年度第3回)和歌山市廃棄物減量等推進審議会議事録

日時：平成28年8月30日 午前10時00分～午前12時00分

場所：和歌山商工会議所 4階 特別会議室

開会

審議会成立状況確認

資料確認

(会長)

今日は「素案について」が主な議題です。この後パブリックコメントを行うため、主なご意見は今日いただかないと間に合わないということになります。忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

事務局より資料1に基づき説明

(会長)

主に今までの審議でご意見いただいて反映された部分の説明と、計画については10年間、さらに先までのものについてご説明いただきました。非常に盛沢山の内容です。どこからでもご意見があればお願いします。

(委員)

30%減量の目標は達成したいという意気込みはわかりますが、家庭系ごみの推移を見ても最終目標まで達成できるのかというところは非常に疑問があります。

家庭系ごみの発生抑制・資源化のための推進施策が書かれていますが、大半は継続施策となっています。旧施策と新施策で特に強化してごみ減量を推進するという具体的な部分が見えてこないのご説明いただきたいと思います。

(事務局)

和歌山市ではストックヤードを新たに作り、搬入されたものを分別して資源化していく予定です。また、直接持ち込みも受け入れており、入ってきたごみの展開検査を行い、受け入れ時に不適正なものを規制するという施策を行います。これにより大幅な減量が可能と考えています。

(委員)

それは事業系ごみだけですか。

(事務局)

直接持ち込み分ですので、家庭系、事業系両方です。

(会長)

事業系ごみは処理手数料の増大もあり、減量が大きいですが、家庭系ごみはまだ進んでいません。しかしながら家庭系ごみの施策はまだ始めたばかりのものもあり、徐々に効果が出てきているという説明でした。何かもう少し強化したものが欲しいということでした。家庭系ごみの減らせるもの、資源化できるものとして代表的な物は、生ごみや紙ごみなどです。紙ごみについては、その発生を抑制するというのが施策になっています。集団回収で強化することもある意味目玉です。その辺の施策が機能するかというところが懸念されているかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

(委員)

今年4月頃から雑がみを紙袋に入れて出してくれる方が多くなっています。新聞は取らなくなった方も多く、新聞紙は少なくなっています。雑がみの回収を進めていますが、ビニール袋に入れて出すなどしないようお願いしています。

(会長)

集団回収の促進という意味ではどうでしょうか。

(委員)

生活学校に入っている方は持ってきてくださっていますが、年齢とともに新聞など重いものは出すのが難しく、遠い方はそういうものを出すのが減ってきています。高齢化とともに集団回収量も減ってきていると思います。

自治会でもお願いしていますが、一戸一戸回って資源を回収される業者さんもいるようで、無理にはお願いできないため集めにくい状況となっています。

夏場の暑い時などは無理を言って持ってきてもらうわけにはいきません。

なかなか集団回収は集まりにくいです。

(会長)

資源集団回収の更なる推進という施策がありますが、具体的には何かあるのでしょうか。

(事務局)

新規の団体を開拓するため、何らかの方策を取る必要があると考えています。慎重な検討をしたうえで、集団回収の見直しを行いたいと思います。

(委員)

集団回収の一番の問題については一か所に集めなければならないというところです。広い地域から一か所に集めるというのは難しいです。

広い地域全域をやらなければならないということが難しく、その地域の一部から初めて徐々に広げていくなど融通性をつけた集団回収ができればいいと思います。是非検討していただきたいと思います。

(委員)

集団回収についてはまだ具体的な内容が決定していないということで、スケジュールではその反映がされていません。

例えば、先ほど意見があったように限定的な地域で試験的な検討をして、段階的に進めていくということが必要ではないでしょうか。

(事務局)

モデル地域として実施しているところもありますが、和歌山市の地域性もあり、モデル的なものが馴染んでいかないといった問題もあります。どうしたら馴染んでいくかという方策を考えていますが、抜本的な施策が浮かんでこないというところです。

(委員)

難しいということは理解していますが、だからといってスケジュールが一本というのは具体性に欠くのではないのでしょうか。検討すべき課題、モデルの水平展開の方法をどうするかを、何年度に検討するなどスケジュールをもう少し具体化するべきではないのでしょうか。

(事務局)

集団回収については再検討します。

(委員)

具体的な施策が全く浮かんでいないというものに、さらなる充実という言葉を使った計画はおかしいのではないかと思います。

(委員)

資料1の1頁に「つれもて」という言葉が出てきて、用語の説明が35頁に出てくるので、それは最初に出てくる1頁で説明すべきだと思います。

補足資料のごみ有料化について、「経済的インセンティブを働きかけた」、次の行「実施した…の実施では」、裏面の「後期見直し版の施策は、……効果的な施策である」、これら文章は精査していただきたいと思います。

前回プラスチックの分別を止めることについてごみ量にどのように影響するか懸念されるというお話がありましたが、プラスチックの分別を止めたことをどう位置付けるのかということが課題ではないかと感じました。特に基本方針に関しては、基本目標は継続すると書きながら分別の制度が大きく変わっているという点をどう整合図るのが気になりました。

関連して将来のごみ処理方法について平成27年度以降に継続すると現状推移が減ることが書かれていますが、平成28年度にプラスチックの分別が変わることに対して誠実な将来予測になっていないのではないのでしょうか。

(事務局)

プラスチックの分別については大きな問題です。

計画策定当初にはプラスチックの分別を止めるという話はありませんでした。その後直ぐに国のほうから発電という形の施策が出て、循環型交付金制度ができました。和歌山市も大きな施設改良を行いました。その時に、ごみ質の変化によって熱量の不足がでてきました。化石燃料を使うよりプラスチックの代替燃料を使うこととしました。

おっしゃるとおりプラスチック分別を止めたという説明事項が、計画書の中に書かれていません。この点については再度検討します。

なお、ごみ量の将来予測ですが、実績として、4月、5月は前年度より増えています。それ以降はプラスチック製容器包装が入っても、前年度より減っているというところがあります。現時点では、今後どうなるかは分からないところもありますが、他の施策も含めて減ってきているということからその予測を設定しています。

(委員)

計画なので明確に調べる必要はないですが、今後もモニタリングするなどの記述は必要だと思います。

また、環境面ではCO₂削減ということも重要であるため、廃棄物からのエネルギー回収が自治体にとって重要な施策であるという社会的要請があるので、和歌山市では高効率な発電設備を造り最大限活用することが重要だということを書いて位置づけることが必要ではないでしょうか。

またごみからのエネルギー回収という視点を目標として持つべきではないでしょうか。そうすることでプラスチックの分別による位置づけができるのではないのでしょうか。

(事務局)

CO₂については環境基本計画で検討する予定です。エネルギー回収についても、電気量をリサイクルの指標にできないかということで検討をしています。まだ4月から始めたところで検討中ですが、別途に検討していきたいと思います。

(委員)

上位計画の環境基本計画を受けてごみ側での計画になりますので、ごみ処理基本計画でもはっきりと書いてもいいのではないかと思います。

(事務局)

計画の関連性の中で検討していきたいと思います。

(会長)

つれもての説明とか、有料化についての資料は今日だけの資料かもしれませんが、検討していただくようお願いします。

(事務局)

本日だけの資料にはなりますが、基本計画に反映する文章もありますので、その部分は検討、

反映していきたいと思います。

(委員)

容器包装リサイクル法によってプラスチックを分けてきたことと、プラスチックを燃料化する国の方針とは真逆のことにはなるのですが、和歌山市はプラスチックごみを燃料化するというのはなかなか勇気のある行動だったのではないかと思います。エネルギー利用としていい方向に進むのではないのでしょうか。

(事務局)

容器包装リサイクル法は有効な法律であると思いますが、和歌山市では自区内処理が基本と考えており、プラスチック製容器包装のみ容器包装リサイクル法の制度を活用し容リ協会へ出していました。しかし、容リ協会での資源化も半分は燃やされていたということもあり、自区内でのサーマルリカバリーを選択しました。

(会長)

プラスチックを燃やしてエネルギー化するという自治体も増えてきています。その場合効率的な発電ができる施設があるかということになります。

マテリアルリサイクルを行うためには分別を徹底する必要があります。プラスチックに関しては全市民がしっかり異物を入れずに分別できるかという点非常に難しく、分別回収しても実際に資源化されるものが少ない状況です。もしくは残渣として焼却されているということがあります。それを考えると一般ごみとして焼却する方が効率的ということがあります。

そうした説明を市のスタンスとしてしっかり書いていただきたいと思います。

プラスチックの分別がなくなることで、他の資源の分別を徹底することができるなどという方向に繋げていただきたいと思います。

(委員)

全市民に浸透していないということがありましたが、子どもから大人への徹底など進めていただいていると思いますが、和歌山市は全国に比べて富裕層が多いということでもないのに、ごみの出る量が多いのは何故でしょうか。

市民に浸透していないとありますが、市民は前向きに進めていると思います。このままでは30%の削減は難しいのではないのでしょうか。施策の中にぴりっとした文言がほしいと思います。

(事務局)

紙と生ごみの水分が多いと思います。減らすためには排出者の方に意識をもつていただくことが必要で、地道に進めていきたいと考えています。

(委員)

平均を上回るというのはどういう計算をしているのですか。

世帯数（人口）等で割ってみているのでしょうか。

(事務局)

その通りです。必ずしも他都市とごみの集計が同じかというところには疑問もありますが、ごみ量が多く下位であるというところです。

(会長)

集団回収の取組の開始が遅かったということもありますが、集団回収だけでなく、リリクル通信であるとか、市民への浸透が過去5年で進んできたものです。現状だけ見るといろいろやっているのですが、他都市は、10年、20年と継続して取組をおこなっています。それに比べると、和歌山市はまだ始めたばかりなので効果が出ていないところもあります。時間をかけなければ、市民に浸透しないところもあるということを理解いただきたい。

(委員)

粗大ごみについてはストックヤードを造って受入れ拒否なども検討されているということもありましたが、粗大ごみについては有料化ということも視野に入っているのでしょうか。

(事務局)

粗大ごみについては費用区分が適切であれば有料化も考える必要があると考えています。

(委員)

この計画の期間中に実施する可能性もあるということですか。

(事務局)

平成30年度にストックヤードを造りますので、その状況も見ながら計画期間中に検討します。

(会長)

粗大ごみは有料化すると書いてしまってもいいのではないのでしょうか。パブリックコメントで市民から有料化が読み取れるような表現にしていきたいと思いますと思います。

(事務局)

和歌山市は不法投棄される場所も多く、対策の充実を図ってようやく減少してきたというところもあり、不法投棄の問題とも連動するため慎重にならざるを得ません。

(委員)

他都市で家庭ごみの有料化しているところというのはあるのでしょうか。

(事務局)

有料化をしていないところのほうが少ないです。

(委員)

そうであれば、このままいくと有料化だという市民への警告を示していく方がいいのではないのでしょうか。

(事務局)

和歌山市は施策が遅れているということがあるため、まだ知らないという方もいらっしゃると思います。遅れている分、他都市に比べて進めていかなければならないのは事実ですが、周知活動がまだ不足しているのではないかと感じているため、時期を見極めたいと考えています。

(委員)

今すぐということではなく、将来的にこの状況が継続するならば、という警告は打ち出しておいた方がいいのではないのでしょうか。

(会長)

警告と受け取れるような文言にはなっていないのでもう少し強い表現でというご意見でした。この辺りもパブリックコメントで意見が上がってくればご検討いただけるかと思います。他にご意見がないようなので議事の2に進めていきます。

事務局より資料2に基づき説明

(会長)

何かご意見はありますでしょうか。特になければ議事3に進めていきます。

事務局よりその他連絡事項説明

次回審議会の日程調整について

委員の任期満了により退任する委員ご挨拶

第27回廃棄物資源循環学会研究発表会についてのご紹介

(会長)

ほかにご意見がなければ議論はここまでとしたいとおもいますがよろしいでしょうか。司会を(事務局)にお返しいたします。

事務局より閉会挨拶

以上